

主体的に社会の形成に参画する力を育てる社会科学習

地理的分野 専門委員長 岐阜市立藍川中学校 勝野 陽介

1 はじめに

岐中社が全国大会岐阜大会以前から「主体的に社会の形成に参画する力」を育ててきたことは、学習指導要領の「学びに向かう人間性等の育成」を先取りしていたと考えている。

また、「人間の生き方を問い続ける社会科学習」を主題にした昨年の全国中学校社会科教育研究大会名古屋大会に参加して、岐中社が実践してきた「価値に関する認識を形成する授業」が、これまで以上に全国的に注目されていることを実感できた。岐中社のこれまでの取組に自信と誇りをもって、今年度の実践につなげていきたい。

2 研究内容

「価値に関する認識を形成する授業」にチャレンジしていきたいが、同時に「価値に関する認識を形成する授業」が注目され、小社研で「選択・判断を迫る授業」の実践がされる中、中学校で確かな事実認識の獲得がないまま、選択・判断を迫ったり、合意形成をしようとしたりする授業が行われていることも危惧している。そのことと、地理的分野では、全授業の9割が「事実に関する認識を獲得する授業」であることを踏まえ、研究内容を以下の3つとしたい。

研究内容1「事実に関する認識を獲得する授業」

教師が積極的な教材研究を行い、魅力ある題材の授業づくりは、社会科の教師にとってとても大切なことである。地理的分野においては、現地へ赴く、取材をすることが理想である。そのような題材を用いて、「事実に関する認識を獲得する授業」を「授業モデル」に基づき実践していく。その際、3観点となった評価の在り方を明らかにしながら、一昨年、昨年に作成した年間指導計画をバージョンアップしていきたい。

研究内容2「事実に関する認識を獲得する授業」だが、「価値に関する認識を形成する授業」につながる授業

選択・判断を迫る学習(授業ではなく学習)は「事実に関する認識を獲得する授業」の授業モデル【段階Ⅱ】で実践できる。これは、「価値に関する認識を形成する授業」の実践に確実につながる。安易に選択・判断を迫る課題設定をするのではなく、確かな事実認識を獲得することをねらいとしながら、教師の問いかけやコーディネート、レーダーチャートの活用などで、選択・判断もしていく。これを「事実に関する認識を獲得する授業」だが、「価値に関する認識を形成する授業」につながる授業とし、積極的に実践していきたい。

研究内容3「価値に関する認識を形成する授業」

「価値に関する認識を形成する授業」については、地理的な見方・考え方で「今日の問題であるか」、「当事者意識をもてるか」を重視すると「南アメリカ州(開発と環境)」「地域の在り方」の単元で実践できる。この単元を中心に「価値に関する認識を形成する授業」の授業モデル②に基づき、留保条件を用いたり、合意形成したりすることに挑みたい。その際、ツールミン図式の学習プリントの活用などで思考の可視化を図ったり、判断基準の明確化や異なる判断基準に気付きにつなげたりしたい。また、評価規準を明確化していきたい。特に、主体的に学習に取り組む態度の在り方に着目したい。

3 おわりに

昨年度、若手の授業研究委員の先生が、自分の教材研究に自信をもち、生徒と共に笑顔あふれる授業をしたことが印象的であった。そのような「事実に関する認識を獲得する授業」をベースに、『事実に関する認識を獲得する授業』だが、『価値に関する認識を形成する授業』につながる授業」を積極的に実践することで、「価値に関する認識を形成する授業」について確かな理論をもてるようにしていきたい。(R5.4.27)

主体的に社会の形成に参画する力を育てる社会科学習

歴史的分野長 本巣市立根尾学園 稀垣 直斗

1 はじめに

昨年度は、特に【事実に関する認識を獲得する授業】と【価値に関する認識を形成する授業】の接続の授業に重点を置いて、実践を行った。成果と課題は、以下の通りである。

【事実に関する認識を獲得する授業】と【価値に関する認識を形成する授業】の接続の授業

- 歴史上の人物の判断を取り上げ、当時の社会の状況や社会的課題について、自分の判断基準をもとに、価値を分類・整理し、考察することができた。
- 歴史的な見方・考え方を働かせて追究し、時代の推移、比較、関連、相互の関連や現在のつながりなどに着目し、多面的・多角的に考察できるようにする。
- 自分と仲間の判断の共通点や相違点、判断基準を明確にし、自分の判断基準がどのように再構成されたのかを気付けるようにする。

岐阜中がこれまで提案してきたように【価値に関する認識を形成する授業】は、歴史的分野では1割にも満たないかもしれない。歴史的分野の学習指導要領においても「現代の日本と世界」にだけ「構想」が記載されている。そのため、歴史的分野の最終段階で歴史と私たちとのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について、多面的・多角的に考察、構想し、表現するためには、【事実に関する認識を獲得する授業】と【価値に関する認識を形成する授業】の接続の授業を積み重ねて、「構想（選択・判断）する力」を鍛えていく必要がある。

よって、今年度は先人が苦難を乗り越える場面など、時代の転換期を取り上げ、時代の転換期の前後の共通点や相違点を明確にして、その判断基準について分析・検討、評価させる学習を積み上げるようにする。

2 研究内容

(1)「事実に関する認識を獲得する授業」

各時代相を見いだすことができる指導計画の工夫

…概念的知識をどう獲得させ、どのように時代の特色（時代相）を捉えるかを明らかにする。

認識を深めるための指導方法の工夫

…歴史的な見方・考え方を働かせて、認識を深める発問及び資料を吟味する。

社会的事象や人物の願いなどを、資料に基づいて多面的・多角的に考察し、時期や推移などに着目し、時代ごとの特色（時代相）を深く認識することが大切である。よって、「いつ起こったか?」「どのように変わったか?」、「なぜ起こった(何のために行われた)か?」、「どのような変化があったのか?」など、歴史的な見方・考え方を働かせる問いを教師や生徒が意図的に使う手立てが挙げられる。

また、事象が生じた原因、結果や影響などに着目

し、その当時の社会状況を、多面的・多角的に考察することができるようにすることを一層重視し、人物の願いや努力（生き様）がにじみ出る授業の開発に努める。そうすることが【価値に関する認識を形成する授業】において、事実に関する認識を土台とし、歴史的な見方・考え方を働かせて、判断することにもつながる。

(2) 価値に関する認識を形成する授業

事実に関する認識に基づく多様な価値の明確化

…多面的・多角的に考察しながら、当時の人々の業績や願い、実現のための行動の過程、選択肢などに対する判断基準を吟味・評価する。

価値に関する認識を形成するための話合いの組織化

…相互の理解を踏まえたうえで、根拠や判断基準を比較・関連付けたり、構想（選択・判断）を行ったりしながら、意志決定を促す。

学習指導要領における「獲得する知識の概念化を促し、理解を一層深めたり…」の部分にあたると考える。「その政策を支持するか、指示しないか（その判断についてどう思うか）」「どちらの政策が有効だったか」「よりよい未来にするためにどうあるべきだったのか」などの課題（問い）が挙げられる。

こうした課題（問い）を提示することで、生徒たちは「なぜ先人はこのような判断をしたのか」という先人の願いや判断などを吟味・評価し、その裏にある価値を探ることができる。また、どのような価値を優先させたのかという観点で考えるため、生徒たちは自分なりの判断基準を明確にしながら意志決定をし、その後の時代の推移についても考察していくことができる。それが自分の将来の生き方、今後の社会の在り方につながっていく。この意味で、よりよい社会を築くために大切にすべき価値を認識、形成、合意を図るなど、公民的分野への接合ができる。

歴史と自分のつながりや、現在と未来の日本や世界の在り方について考察、構想（選択・判断）できるように、資料が豊富にある「近現代史」において、価値に関する認識を形成する授業を実践する。そうすることで、自分事として課題を捉えながら、多面的・多角的に考察し、先人たちの判断について、吟味・評価しやすいのではないかと考える。そして、ここで働かせた見方・考え方が、地理的分野や公民的分野において、構想（選択・判断）する際の見方・考え方につながるようにする。時には、折り合いをつけながら交流して分析的検討を行うことで、個々の偏見に満ちた判断に陥ることなく合理的なものになるよう留意する。

3 おわりに

歴史から何を学び、歴史学習を通して、どのような社会をつかっていくのか。「歴史を学ぶ意味」を生徒と共に考えたい。そして、生徒が歴史を自分事として捉え、よりよい社会の実現に向けて、主体的に考えることができるような授業実践を進めていきたい。

主体的に社会の形成に参画する力を育てる社会科学習

公民的分野専門委員長 岐阜市立岐阜西中学校 前島 久恵

1 はじめに

昨年度まで、【価値に関する認識を形成する授業】において、次の内容を重点として実践研究を進めた。成果と課題は以下の通りである。

「留保条件」について

留保条件…折り合いをつけながら自分なりの最適解を導き出すための条件

- Aor Bを判断するのではなく、条件を考えながら折り合いをつける学習活動を日常的に取り入れることにより、授業終末でなくても「留保条件」を活用しながら、結論を考えている生徒の姿を生み出すことができた。
- 時間軸（現在、未来）を固定するかどうかにより議論の内容や結論が変わってくるのが分かった。そのため、時間軸の設定をどこまで行うのかは検討していく必要がある。
- 折り合いをつけることができる手立てとしては有効であるが、悪い意味でいうと妥協の提案となってしまうとも言える。「留保条件」は手立ての一つと考え、県内に広めながら、その他の手立てはないのか模索していく必要もある。

「事実の分析的検討」について

- 生徒の発言を「事実の分析的検討」を踏まえながら聞くと、生徒は無意識かもしれないが、「類推」、「未来予測」、「比較」、「統合」の考え方を活用していた。それを、教師が意図的に取り上げたり、価値付けたりすることで、合理的な意思決定につながっていき、話し合いの質が高まった。
- 授業終末に「互いの意見を尊重し、どの立場からも納得できるようにするには、どのような提案を考えていくとよいか？」という教師の手立てが「事実の分析的検討」の統合につながり、最終的な結論を導き出す手立てとなった。

「合意形成の授業」について

- 留保条件の設定により、個人内での合理的な意思決定を図ることができた。
- 一方、集団での合意形成までには至らなかった。集団での合意形成の授業が中学校段階で可能なか実践を行い、検証をする必要がある。（まずは、運営委員を中心に実践）

2 研究内容

研究推進委員長の本年度の方向にもあるように、公民的分野では、【事実に関する認識を獲得する授業】を基礎としながら、【価値に関する認識を形成する授業】に関して、「価値に関する認識を形成する授業モデルの定着・発展・普及」、「認識を深める場の手立ての在り方の検討（留保条件等）」に着目して研究を進めていく。

公民的分野での【価値に関する認識を形成する授業】における重点は以下の通りである。

【価値に関する認識を形成する授業】

- 授業モデルの定着・発展・普及
 - ・ 価値に関する認識の授業を教科書から考える
 - ・ 評価の充実
(ねらいの明確化とルーブリック評価等の活用)
- 認識を深める場の手立ての在り方
 - ・ 「留保条件の設定」による議論の成立（価値に関する話し合い）
 - ・ 合理的な意志決定をさせるための「事実の分析的検討」

3 おわりに

変化が大きく、予測もつかない時代の中で、生徒たちは、今後、答えのない問いに直面することが多いと予想される。そんな時代の中で、価値に関する認識を形成する授業の重要性がより一層高まっている。価値に関する認識を形成する授業は、公民的分野で2～3割程度を目安としており、他分野よりも比重が高い。こうしたことから、確かな事実に関する認識を獲得した上で価値に関する認識の授業を行うことを大前提として、価値に関する認識を形成する授業に関する理論の具体的な授業への落とし込むことに比重を置き、実践を積み重ねていきたい。

また、価値に関する認識を形成する授業を、教科書を活用して実践していきたい。そのことが、価値に関する認識を形成する授業実践が岐阜県内でさらに定着・普及することにつながり、主体的に社会の形成に参画することのできる生徒のさらなる育成につながると考えている。

1 岐阜県版改訂の目的

- 中社研の研究テーマ「主体的に社会の形成に参画する力を育てる社会科学習」を実現することができる資料集をつくる。
 - ・ 事実に関する認識を獲得するだけでなく、価値に関する認識を形成できる
 - ・ 多面的・多角的な考察ができる
 - ・ 進んで社会に関わろうとする態度を育てることができる

2 現在の進行状況

- ①地理的分野・・・完成し、今年度から使用開始
- ②公民的分野・・・完成し、今年度から使用開始

3 資料集改訂に向けた今後の日程

- 2025年度に生徒が使用する歴史的分野の資料集への記載を目指す。
 - 2023年 ・ 7月下旬～8月中旬に出版社と歴史的分野の資料改訂について打ち合わせ
 - ・ 「歴史の資料」の修正する箇所を確認を行う。
 - 2024年 ・ 実際の資料の修正を行い、11月末までに出版社と複数回推敲し完成。
 - 2025年 ・ 歴史的分野の県版として資料集に記載予定

